

Title	ジェファスンと農業
Sub Title	Thomas Jefferson and agriculture
Author	木村, 喜久彌
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1949
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.42, No.7/8 (1949. 8) ,p.415(45)- 429(59)
JaLC DOI	10.14991/001.19490801-0045
Abstract	
Notes	資料
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19490801-0045">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19490801-0045</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# ジェファースンと農業

木村喜久彌

獨立宣言の起草者、第三代大統領等アメリカ建國當時の民主的大政治家たるタマス・ジェファースン Thomas Jefferson は、同時に亦熱心な農業指導者であり、科學的農法實施の先驅者でもあつた。然し彼のこの半面は、未だ我國ではあまりよく知られてゐない。本稿ではこの農業家としての彼の半面を概括的に紹介しようと思ふ。

ジェファースンは、ヴァージニア西境の民主的なフロンティアに一開拓農家に生れ（一七四三年）、そこで少年時代を過した。彼が同じヴァージニアでも海岸地方の貴族的な農場にはなく民主的進歩的な邊境に生れそこで成長したことは、彼の其後の精神生活に非常に重大なる影響を及した。又ウィリアム・メリイ・カレッヂ在學中（一七六〇—六二年）彼は良き師に恵まれた。即ち自然

三田學會雜誌 第四十二卷第七・八號

哲學者ウィリアム・スモール William Small の人格的影響を受け、そのおかげで物事を科學的に思索する習慣を養成し得たと云はれてゐる。

以下彼の農業觀、大土地所有制度及び奴隸制度に對する反對意見、打穀機・犁頭及び麻櫛等の農機具改良案、耕作技術に關する意見、オリイヴ・陸稻及びメリノ種羊の輸入に努力したこと、農業に關する唯一の著書たる「ヴァージニア覚え書」や農場・菜園に關するメモ等について順次紹介しよう。

ジェファースンは一國の國民經濟に於ける農業の重要性を恒に強調し、フランスの重農主義者達と略々同様な考へを抱いてゐた。彼が農民を如何に考へ又國民經濟に於

四五（四一五）

ジェファースンと農業

ける農業の地位を如何に重要視したか。その唯一の著書「ヴァージニア覚え書」"Notes on Virginia" から若干を引用してみる。

「ヨロッパの經濟學者達は、すべての國はその發展の爲めに工業化に向つて努力すべきであるといふことを一般的原理として確信してゐる。而もこの原理は、他の多くの事柄と同様に、屢々異つた結果を招く環境上の相違等を全く無視してそのまゝアメリカに流布されてゐる。ヨロッパに於いては、土地の大部分は既に耕作されてゐるか或いは耕作者に對して固く閉鎖されてゐる。従つてヨロッパでは工業化と云ふことは、その過剰人口を吸収すべき必要に迫られてゐる爲め絶対に必要は問題であつて、選擇の問題ではない。之に反しアメリカには勤勉は農夫が來り耕すのを待つてゐる土地が無限に存在してゐる。従つてアメリカでは殆んど大部分の市民が農業改良の爲め努力すべきであり、他の人々の消費を充す爲め工業生産に従事するのは極く一部分の市民に限るのが最上の策ではあるまいか？」

「大地を耕す人々は神に選ばれた人々である。而も常に選良として本質的に純眞な美徳を備へてゐる。」

農民はこの地上に聖火を絶えず保持する中心である。彼等が若しさうしなければ、聖火は地上から消滅してしまふかもしれないのである。今まで如何なる時代如何なる國家に於い

四六（四一六）

ても、農民の大部分が道徳的に頹廢したと云ふ様は實例は一つもなかつた。道徳的頹廢とは、神に依存せず而も農民のやうに自己の土地及び自己の勤勉に依存せずして、その生活が歡客の氣紛れに依存してゐる如き人々につけられた標識である。從屬は阿諛及び金次第と云ふ氣質を生ぜしめ美徳の幼芽を窒息せしめる。更に野心の計畫に適した道具を用意することになる。技藝の自然の發達及び結果は、偶然の環境によつて屢々遅延させられた様である。然し概して一國家に於ける農業人口と他の職業人口との比率は、その國家に於ける健全な要素と不健全な要素との比率であり、更にその國の國民道徳の頹廢の程度を測定するに足る良きバロメータである。我國（以下我國とはアメリカ合衆國を指す）に耕作すべき土地が存在してゐる限り、我國の多くの市民が細工藝に向つて工作仕事をしたり紡綸竿をくるく廻したりする様な工業に従事する光景は目撃したくはない。大工、石工及び鍛冶屋は農村に不足してゐる必要だが、その他の工業は一切ヨロッパに委せたいものである。我國の職工に食糧や原料を與へて彼等のしきたりに従つてやらせるよりは、ヨロッパの職工に食糧や原料を輸送してやる方がましである。大西洋を横斷して貨物を輸送するに費す失費は、統治の幸福及び恒久性で十分埋め合せがつくであらう。大都會の群衆は、恰も傷（又は腫物）が人間の肉體に及ぼすと同じく多くのものを純粹の政府の維持に附加してゐる。一つの共和國を常に強壯た

らしめてゐるのは、それを構成する市民の風習及び精神である。道徳的精神的墮落は、その法律及び組織を間もなく喰ひ潰してしまふ潰瘍の様なものである。」

彼は一七八五年八月二三日パリからジョン・ジェイ John Jay 宛の手紙にも同様な意見を述べてゐる。

「土地の耕作者は、最も價値ある市民です。彼等は最も強健にして獨立心に富み而も善良な性質をもつてゐます。更に彼等は國家と密接に結びついて居り、大地と云う最も永續性のある絆によって國の自由及び利害と結びついてゐます。」

ジェファソンは萬人を平等に愛し、人々の間に階級の差別をつけることを嫌つた。然し當時ヴァージニアでは土地に關して限定相続による家産設定の制度が慣行となつてをり、大農場は父から長男へと傳えられ、賣却や贈與による財産の譲渡は禁ぜられてゐた。更に長子相続制も行はれ、父が遺言を残さずに死去した場合その全財産は長子にのみ歸屬することになつてゐた。これらの制度は財産を何代にもわたつて同一家族に限定保有せしめんとするものであつて、封建的非民主的なものであつた。ジェファソンは、この法律を改正すべくヴァージニア議會から選ばれた委員會の委員として、大いに活躍し、猛烈な反對があつたにも拘はらず遂に限定相続制及び長子相続制

三川學會雜誌 第四十二卷第七・八號

四七 (四一七)

を夫々一七七六年及び一七八五年に廢止せしめるのに成功した。その間の事情について彼自らがその自敘傳の中で述べてゐることを次に掲げる。

「一七七六年一〇月二日、私は世襲的土地所有者がその所有地を無條件相続所有地 *fee simple* とすべきことを宣言せる法案の議會通過に成功した。植民の初期即ち土地が輕少な金額又は無償で入手出来た當時、若干の慮りある人々は廣い土地の下附を受けそれを彼等の子孫の世襲的不動産 *fee* としてした。同じ家の代々にわたる財産の繼承は、特殊家族を育成した。即ち彼等は法律によつてその富の恒久性を保證され、一種の特權階級を形成し豪奢な生活を営んだ。そして英國王も植民地に於ける英國側議員 *Counsellors of State* を必ずこの特權階級から選出させて來た。然し乍らかゝる特權階級の存在は、社會全體に對して利益となるよりは寧ろ有害であり、且つ危険である。富による貴族の代りに、神が社會の利益の爲に用意し且つあらゆる條件を通じて平等に散布した美德及び才能を持つ貴族に對する道を開くことは、秩序正しき共和國には最も必要なことである。而もそれを効果あらしめるには、何等の暴力による革命をも必要とせず、又自然的權利の剝奪の必要もない。單に法律の廢止によつてかゝる機會を擴大すれば足りるのである。新なる法律は、現在の土地所有者に對して、子供に對する彼等の愛情が均分されて

ジェファソンと農業

四八 (四一八)

ゐる様に、その子供等にその所有土地を均分することを命ずるものである。」

尙この長子相続廢止に反對の人が長子は少くとも弟達の三倍の分配にあづかるべきだと主張したところ、ジェファソンは、その長子が弟達の二倍働く能力をもち且つ二倍の食事を必要とするのでない以上これを認めるわけにはゆかないと答へたといふ。

扱てジェファソンの農場は約二〇〇人の黒人奴隸を使役してゐた。然し民主的な彼は、奴隸制度に對して常に反對の意見を持つてゐた。ジェファソンの傳記を書いたギルバート・チナードによれば、ジェファソンの奴隸制度に對する見解は、次の如くであつた。即ち「奴隸制度は、國家の腫物のやうなものであつて、事情が許す限り一刻も早く改善するべき恥すべき制度である」と。然し乍らジェファソンは、奴隸の解放は經濟的混亂を生じなす様に行はるべきものと考へてゐた様である。(Gilbert, Chirard, Thomas Jefferson:—the Apostle of Americanism.—(Boston, 1929), p. 492)

奴隸解放に必然的に伴ふ社會經濟的混亂を殆んど顧慮しない様な全く感情的で過激な急進的奴隸制度廢止論者に比べるならば、ジェファソンは温健で消極的な漸進的

奴隸制度廢止論者と云へやう。當時南部地方の農業に不可缺のものとして奴隸制度が一般に是認されてゐたヴァージニアで、ジェファソンの如く奴隸の人權を認めたものは稀であつたと思はれる。ジェファソンは他の人々のやうに奴隸を單なる投資の對象とは考へてゐなかつた。彼は奴隸が解放された場合自活出来る様に彼等に自活の方法を教へた。と云はれてゐる。(August C. Miller jr., Jefferson as an Agriculturist p. 69 in "Agricultural History" No. 16, April 1942)

その農場に使役されてゐる奴隸に對するジェファソンの態度について、彼の管理人ヘンリ・ベーコンは次の如く述べてゐる。

「ジェファソン氏は奴隸を含む使用人に對して常に親切で寛大であつた。彼等を過勞させたり鞭打つことは決して許さなかつた。」(Rev. H. W. Pierson, Jefferson at Monticello (New York 1862), p. 103)

## II

ジェファソンは外國の進歩した農機具を輸入して自ら實驗した後附近の農夫間に普及させたり、或ひは勞力節約の爲め自ら犁頭を改良したり、その他耕作技術の改良に多大の關心を抱いてゐた。

前者の代表的な實例として、彼は當時スコットランドで用ひられてゐた打穀機 *threshing machine* を初めてアメリカへ弘めた。その間の事情について、彼が一七九三年九月一日附でフィラデルフィアからジェイムス・マディソン James Madison に宛てた手紙の一節がこれを語つてゐる。

〔前略〕私が注文した打穀機がスコットランドからニュー・ヨークへ到着しました。ピンクニイ Mr. Pinkney 氏の話では、この打穀機の原型(私のはその原型を模して作つてもらつたのですが)は六頭の馬と五人の勞力で一五〇ブッシェルの小麦を八時間で打穀したとのことです。この打穀機の原動力は、水力でも亦馬力でも良いのです。更に幸ひなことに、それを製作した職人がアメリカへ定住する爲め同じ船で渡來したことです。私は彼に對して直ちにリッチモンドへ來て私の打穀機をモデルにして打穀機の本格的製造に従事してほしい旨の手紙を出しました。従つて貴方へ次の便りを出す迄にはその返事が得られるものと期待して居ります。このモデルは大部分眞鍮製で、最初は馬力専用の簡單な型で費用は五ギニーかかりました。其後ピンクニイ氏が之を水力にも適用出来る様設計しました。尤もそれは構造がもつと複雑で一三ギニーかかりました。然しそれは幅の広い豆からどんな小さな穀粒迄をも打穀出来るでせう。〕

三田學會雜誌 第四十二卷第七・八號

四九 (四一九)

ジェファソンと農業

かゞつてみよう。

〔前略〕私は貴方宛の前便で、私の思ひついた犁頭の構造に言及しました。それは實に能率的な形状で而も簡單に作製出来る様なものです。貴方の所屬されてゐる會(農業改良獎勵會)の會員であるヨックのストリックランド氏の *Stockland* も私の犁頭の構成原理に満足されて設計圖を書かれ、他に若干の人々も同様に稱讚して下さつたことを私は記憶してゐます。其後五ヶ年間の體験によつて、私はこの犁頭が理論上のみでなく實際上でも實に能率的なものであると斷言出来る。犁頭は、犁の後端に始まつた犁先のそして同一平面上の翼部の延長でなければなりません。而もその第一の任務は、耕土を翼部から水平に受けとりそれをひつくり返して一定の高さに盛ることであり、更にその間土の抵抗力を最も少くし従つてそれに要する勞力を最小限に切りつめることにあります。若しこれが犁頭の唯一の任務であるならば、恐らく楔が最も望ましい形となるでせう。(土が犁頭の一定の長さの中に一定の高さに盛り上げられるだけであつてひつくり返されなものであるならば、土の抵抗力の最も少ない形は嚴密に云つて兩面が眞直な楔ではなく、數學家が示す最も抵抗力の少い立體の法則に従つて上方の片面が彎曲した形の楔となるべきであるといふことは、私も十分承知してゐます。然し犁頭の場合平らな楔と彎曲した楔とはその効果が殆んど同様なのです。

この打穀機の効果は實に素晴しく能率的であつた爲め、彼の近所の農夫達もこの打穀機を注文し大いに普及したのであつた。

彼自身が改良し大いに好評を博したものに、犁頭がある。それまで犁板の彎曲部を正確に作る事が出来ず、犁頭で切りとつた耕土が犁板に附着したり或は畦溝の中に落ち込んだりし勝ちであつてうまく行かなかつた。ジェファソンは之を改良せんとして、一七八八年頃から犁頭の形及び角度等を數理的に検討し、耕土を切りとる場合土の抵抗力が最も少い様な即ちあまり力を入れないでも土を軽く切りとれる様な犁頭を作らうとして色々考案した。當時既に他の多くの人々も犁頭の改良を行なつてゐた。然しそれ等は、往昔のサクソン人の如き單純な農具を使用してゐた大多數の農夫には構造・操作があまりにも複雑過ぎて實用的でなかつた。之に反しジェファソンの案出した犁頭は、構造・操作が極めて簡單なものであつて、一般の農夫が鋸と手斧との如きありふれた道具を以て作製し得るものであつた。ジェファソンの犁頭が具體的に如何なるものであつたか、一七九八年三月二三日附で彼がフィラデルフィアからサア・ジョン・シンクレア Sir John Sinclair に宛てた手紙の一節にそれをう

五〇 (四二〇)

然し彎曲した楔の方が動かすのにより多くの勞力を要するの平らな楔を以て私の設計上第一の目的を實施するのに一番望ましい形と看做してゐるのです。

然し土はひつくり返されます。さうする爲め楔の他の端は、それ自身の重きで落ちかゝる様垂直に迄上げられなければならないでせう。而もそれは抵抗力が最も少い様になされねばならぬので、土が受取られた瞬間から徐々に上げられねばならぬでせう。犁頭は、かくてその時第二の任務として、横軸即ち上る楔として作用するでせう。而もその尖端は地面に水平に滑り返り、他の端は垂直になる迄上昇し続けるのです。換言すれば、地面に背後翼部から延び、廣く且つ斜に高く犁頭の幅の楔を置くことです。而してその表面に、尖端の左の角度から、後部の右上方角度へ對角線をひいて御覽なさい。對角線から地面に横はつてゐる右底端へ傾けて御覽なさい。その時の半分が、最小の勞力を以て土を徐々に盛り上げたり又ひつくり返したりするのに最も有効な形になつてゐるのです。更に貴方が對角線の左側を横切る同じ斜線即ち少くともその長さが楔の幅に等しい眞直な線を、最初の斜線の表面に及ぼしそれ自身及び楔の端と平行に後ろへ動かして御覽になつて線の下端を右底端に沿つて動かせば、彎曲せる平面が生ずるでせう。それは楔の原理を交錯せる方向に結合した點にその特徴があり、それこそ私が探求してゐる最も抵抗力の少い犁頭なのです。それは實に偉大なる利益をもたらすも

ので而も構造が簡單ですから、素人でも充分作り得るでせう。(後略)

彼はその次に犁頭の詳細な設計圖を八枚も書き微細な點迄説明してゐるが、それはあまりにも専門的になるから本稿では省略する。これにうつ Everett E. Edwards, Jefferson and Agriculture, (Washington, 1943) pp. 41-44 を参照。この書は、一九四三年ジェファソン生誕二〇〇年記念出版物としてアメリカ合衆國農務省から發行されたジェファソンに關する資料集である。彼の案出した犁は實に傑出したものであつたが、未だに舊式な犁に對する迷信的な保守主義を捨てきれない農夫達には不幸にしてあまり受入れられなかつた様である。然し乍ら之は注目すべき業績であつて、所謂試験時代から科學的法則による發明への變遷を明示するものであつた。この新しい犁はヨーロッパ諸國の科學界から注目され、彼は歐洲の色々な學界から名譽會員の稱號を受くるに至つた。

扱て當時アメリカで麻を梳いて精製する工程は専ら人手で行はれてゐた。然しそれは多大の勞力を要し且つ非能率的なものであつた。ジェファソンは麻櫛を改良し、これを打穀機へ裝置して能率を上ることを案出した。その間の事情を、彼が一八一五年一月二十九日付でモンテ

三川學會雜誌 第四十二卷第七・八號

ジェファソンと農業

た。尤も私は其後間もなく大麻の精製過程を簡易化する單純且つ廉價な方法を案出しましたので、現在では再び大麻の栽培加工を復活して居ります。打穀機の所有者なら、僅か一二弗から一五弗位の經費でそれに麻櫛を裝置出来るのです。

貴方も御承知の如く打穀機の最初の原動力は、上方に齒車のついてゐる水平の動輪です。而してそれにワロワアや軸がついてゐて、それが打穀装置を動かしてゐるのです。私はこの輪の反對側にもう一つのワロワアやシャフトをとりつけます。而してそれを通し且つその外側の端近くに、一五吋程突出してゐる強力なクロス・アームを通します。最後にクロス・アームの下に、重く且つ強力な麻櫛を取付けるのです。その頭部の索は特に重くどつしりしたものに四フィート位の高さにし、正面の上端近くに強力な釘(私達はそれを horn と呼んでゐます)を取付けるのです。それによつてクロス・アームは上り、ワロワアの回轉する度毎に麻を二度梳きまします。一人がこの麻櫛に大麻の莖を挿込み、一人の子供が頭部の索の下で大麻の大きな撚りを支へ持ちます。煙草のそれに似てはみますがそれよりも大きいこの撚りは、かくて梳かれるのです。而も人手でするよりもつと完全に梳かれます。若し動輪が一四四の齒車をもつて居れば、ワロワアは一一回轉し、馬は一分間に三度動いて八〇回梳きます。私はこの麻櫛を鋸機に裝置してみました。それは一回に二〇〇封度の割合で麻を梳きましたが、その作業を途中で中斷される不便があ

イセロより、チヨオチ・フレミング George Fleming に宛てた手紙の一節にうかがつてみよう。

〔前略〕過日落手した貴方の御書面によれば、貴方は平常機械力を應用することに多大の關心を抱いて居られる様ですが、その方面のことについて一寸したことを(と云つても決して無價値なものではありません)お知らせ致しませう。貴方は我國の多くの人々同様依然として家内工業を續けて居られるものと思はれます。然し貴方は他の人々と異り平和回復後は、舊敵國を富ませたり或は又外國の代理人を我國内で扶養する爲めに仕事を中止する様なことはなさらないでせう。外國の代理人達は今迄私達に對し實に有害な影響を及し、更に多大の混亂と紛争とを惹起したのです。

私達が使役してゐる勞働者達の仕事着は、今迄相當厄介な問題でした。つまり亞麻は我國の土壌には合はないし而も生産力が少いので、私は今迄その栽培を試みたことはありません。他方大麻は多量に生産されてゐるし又引續き同一の場所に成長する植物です。然し今迄人手で行はれて來たその精製過程は、實にスロウ・モーションで而も多くの勞力を必要としました。従つて我國の勞働者達から大いに不平不満を云はれて來たものです。そこで私は大麻の製造をあきらめ、彼等の仕事着には既製品の木綿を輸入しました。然しその價格が騰貴したので、大きな支出項目の一つになつてしまひまし

五一 (四二二)

五二 (四二二)

るので私は馬力を用ひ優秀な成果をあげました。原動力が小さければそれに比例して成果もあがらないものかどうかは、大麻の次の收穫期迄公正な實驗は出来ません。私は一頭の馬が一〇人分の仕事をなしとげるだらうと豫期して居ります。かくの如き發明は大麻の栽培者達から長年切望されて來たものですから、私はこの麻櫛の成果が確實に優秀なものであることが明かになつたら直ぐに、それが他人の權利を横領する特許權所有者に悪用されるのを豫防する爲めに匿名で公表するつもりです。(後略)

三

ジェファソン時代の一般の農業經營法は、實に粗雑で非生産的なものであつた。従つて荒蕪地がいたるところに存在してゐた。ジェファソンはその長期にわたる公職在任期間中管理人が怠慢に放置してゐたモンティセロの農園の地味を回復しようとして、輪作を採用した。

一七九四年五月一四日附を以て彼がワシントン大統領に送つた手紙は、その間の消息を物語つてゐる。

〔前略〕私は私の農地の一部を調べてみました。私が一〇年間も不在で農地の管理を怠慢な管理人に一任してゐた爲めそれが豫期以上に荒廢してしまつてゐることを知りました。そこで私は何かもつと良い農業經營法(作付方法)を採用せざるを得なくなりました。私の不在中多くの土地を解放

したことによつて、私はそれが可能なことを知つたのです。私は私の農地を六つの畑に分割して、次の如く輪作する様決めました。

第一年は小麦、二年目は雑穀芋類及び豌豆、三年目は状況に応じてライ麦又は小麦、四年目と五年目も畑の状況によりクロオヅアと蕎麥、六年目は羊を飼育したり蕎麥で仕立てる。

この計畫の遂行には、三年乃至六年かゝるでせう。然し私は(中略)今年こそ私の農園を荒廢から救ふ爲め多くのことをしようと思ふことだけで、満足してゐるものではない。時間、忍耐そして不撓不屈の精神こそ眞の救済であるに相違ないでせう。貴方のお手紙中の箴言『ゆつくりして確實に』は、政治上のみならず農業上にもあてはまると思ひます。(後略)

輪作に關聯して、地味を回復させる様な牧草の採用が必要であつた。ジェファソンはこの種の牧草として、紫莖首宿キクヂサ及び各種のクロオヅアを用ひた。彼がこの種の牧草の紹介普及に如何に熱心だつたかを示すものとして、次の二つの手紙を掲げる。第一のものは一七九四年ジョン・テロイラー John Taylor 宛の手紙の一節である。

〔前略〕私の畑の様が荒廢の度が激しくともクロオヅア

三田學會雜誌 第四十二卷第七・八號

ジェファソンと農業

したことである。

イタリアのピエモン地方産の米が品質優秀であり、且つその販路が廣いことが、パリ滞在中のジェファソンの注意を惹いた。彼はその米とキャロライナ産の米との差異が、穀物そのものの差異によるのか或は又その精米方法によるのか、疑問を抱いた。そこで自ら親しくイタリアのピエモン地方を訪れ、そこではサウス・キャロライナと殆んど同一の方法で精米が行はれてゐるのを目撃し、ピエモン地方産米は穀物そのものの品質が卓越してゐるものと結論した。彼は早速その種籾を故國の友人に送りたいと思つた。然し當時ツーリンの政廳は、籾の國外輸出を死刑を以て嚴禁してゐた。そこでジェファソンは販者を買収し、數袋の籾をアペニン山脈を越えて密輸出する様を、のかした。慎重な彼は、それが成功しない場合をも考慮して、自分のポケットの中にもイタリア産の優秀な籾を詰め込んだのである。然し幸ひにもこの密輸出は成功した。かゝる經路を以て、この禁斷の實はサウス・キャロライナ及びチヨオヂアへ送られた。その結果これ等の地方は、その後間もなく世界的に品質優秀な米を産出する様になつたのである。ジェファソンの様な紳士が、何故密輸と云ふ如き不法な非常手段に訴へて迄

が成長しない様な畑には、イガ豆をおすゝめします。これはどんなひどい荒蕪地にも繁殖するし、實に偉大な地味回復草です。アアサー・ヤング氏 Mr. Arthur Young のお世話により、私がフランスから輸入し大統領にもお送りしたキクヂサの種子を隣人に若干分與してあげたところ大嬉びでした。私は今年このキクヂサを一つの畑に栽植してみようと思ひます。(後略)

次は一七九五年四月二七日附でジェイムズ・マデイソン James Madison 宛の手紙の一節である。

〔前略〕私は私の作付計畫を、徐々にはあるが着實に實施しつゝあります。この計畫の遂行には四、五年かゝるでせう。尚昨年試みに一寸栽培してみた赤色クロオヅアは、大成功を収めました。それは約四〇エイカの畑に蒔いたのです。今年はその約一二〇エイカの畑に蒔くつもりです。(後略)

#### 四

外交官として多忙な生活を送つてゐた滞歐中も、ジェファソンは自國アメリカの農業に有利な情報を友人に通信することを忘れなかつた。更に彼はヨオロッパ産の穀物、栽培植物、果樹等を實際にアメリカへ移植した先驅者でもあつた。それらのうち殊に注目すべき一つは、陸稻をサウス・キャロライナ及びチヨオヂアへ初めて移植

五三 (四二三)

五四 (四二四)

もイタリア産の優秀な米をアメリカ南部地方へ移入せんと努めたか? それは當時マリヤの爲めキャロライナの水田が壊滅に瀕してゐたからであつたと云はれてゐる (Noek, Jefferson. p. 169.) その間の詳しき事情はウィリアム・ドレイトン William Drayton に宛てた彼の手紙の一節を引用しよう。

「私はこの國(フランス)殊にその首都(パリ)に於ける米の消費量が莫大であるのを觀察し、それらの米は如何なる市場から來るものか、又我國(アメリカ)から來る割合はどの位であるか、更にその割合を増加させることは可能か否かの諸問題を調査してみようと思ひました。パリは外國との貿易には殆んど直接に關係してゐないので、以上の諸問題についての情報を入手するのは困難なことです。私は先づ米の小賣商人に照會してみました。そして彼等から眞實と誤謬の混合した情報を得ました。尤も最初のうちはどれが眞實でどれが誤りなのか、仲々識別出来ませんでした。然し私は引續き照會調査を行ひ、遂に次の様な結論を得たのです。

この米商人は二種類の米を購置してゐる様です。即ちキャロライナ産米(彼等は之を英國を通して輸入してゐます)及びピエモン産米です。

キャロライナ米は形が細長く白色透明でミルクや砂糖で料

理するには適してゐます。然し脂肪性調味料での料理には不適です。之に反してピエモン米は粒が短く色もあまり純白ではありませんが、脂肪性調味料での料理には適し、美味なので、食通の人々からは愛好されてゐます。然しキャロライナ米は外見が美しいので、外見にひかれ易い消費者の眼を誘惑し、結局ピエモン米と同じ位の需要がある様です。米商達は、この二種の米の相違はその精製法に基因してゐると考へてゐるらしいです。つまりキャロライナ米の精製法は粗雑で粒が揃つてゐないとのことです。従つてそれはピエモン米より價格低廉です。米商人達は顧客の嗜好に迎合しようとしてキャロライナ米を選び分けます。そして優秀なのはピエモンと同じ位多く仕入れ、残りの屑米は二等品及び三等米としてより廉價に販賣してゐます。キャロライナ米の不評の原因は、それがある種の料理に用ひるとポロ／＼に崩れてしまふ點にある様です。そしてこれは精製の際の不手際によるものと考へられて居ります。私はフランスの港町を視察する旅の途中マルセイユに立寄つた時、ピエモン地方に於ける精米法をこの米商人に聞いてみようと思ひました。然しマルセイユの米商人達はそれについて色々異つた説を述べました。磨臼の石で精製すると云ふ者や磨臼の形をした木製の磨機で精製すると説く者もあり更にコルクですると云ふ者さへありました。尤も彼等は、私がアルプスを越えてイタリーのピエモ

三川學會雜誌 第四十二卷第七・八號

五五 (四二五)

ン地方へ赴いて親しく視察すべきだと云ふ點では一致した意見をもつてゐました。それは約三週間の旅程です。私はアルプスを越えてイタリーへ入り、ヴェルケレイからバヴィア迄の米産地を約六〇哩にわたつて視察しました。そしてそこで精米方法が、キャロライナに於けると全く同一なのに氣がつきました。それはE・ルトリッヂ氏 E. Rutledge が嘗て私に書き送つて下さつた。精米機について説明を想起させました。即ちそれは搗磨の原理に基いたものです。それらの中には、各杵に鐵製の齒を附け互に鈎着した九つの大釘から成つてゐるものもあります。これはルトリッヂ氏の説明にはなかつたものです。私はさういふものを作らせました。私はこの手紙でそれを貴方にお知らせする光榮を有します。私はこゝで使用されてゐる精米機の大部分は右の鐵の齒がついてないものでそれ程効果的でないことを知りました。従つてこのロムバルディ地方産米は(ピエモン米と一般に稱呼されてゐるものは實はこのロムバルディ地方の米なのですが)品質はキャロライナ米と全然別種のものであることを知りました。アジアでは數種類の米が栽植されてゐる様です。

アイル・オブ・フランスの前總督ボワヅル氏 Poivre はアジア諸國を巡遊し、該地の農業を特に注意して視察した結果、次の様なことを私達に示してくれました。

「交趾支那の農民は六種程の米を栽植して居り、そのう

ジェンフアスンと農業

五六 (四二六)

ち三種類が水稻で他の三種類が陸稻である。」  
キャロライナ米はマダガスカルから移植したものと云はれて居ります。ボワヅル氏の言によれば、マダガスカルの米は白色との由です。このことはキャロライナ米が本来ピエモンのそれとは品種を異にして居り、更に兩者の栽植方法及び氣候はもつとそれ以上異つてゐることを立證する有力な資料です。

私はこのやうに考へた結果、貴方に精製されてゐないピエモン米を若干差上げようと思ひました。然しこの國では、籾を國外へ搬出することは法律で嚴禁されて居りますので、私は止むを得ずある人を誘つて秘かに搬出せようと、更に萬一失敗した場合をも願慮して私自身もポケットの中にそれを三封度入れて持ち出さうと企てました。私はさうして苦心して搬出した籾の一部分を、ロンドン經由で貴方にお送りしました。然し若しそれが途中何か事故があつて届かないと困りますから、他の方法でもう一包お送りするつもりです。それは無事に届けば、種籾にするのに役立ち更に良き研究資料となるでせう。尚レヴァント地方も米を産出してゐます。而もそれはピエモン米より品質優秀であると考へてゐる人もある位です。尤も最近數年間レヴァント地方に動亂が起つたので、レヴァント産米はこゝ暫くヨーロッパ市場から遮斷されてゐます。然し私はとにかくマルセイユでレヴァント産米一

袋を入手しました。それとマルセイユへ行く途中入手したロムバルディ産の最良の米を、貴方が料理して兩者の優劣を識別し得る位の分量だけお送りしませう。それらをキャロライナ及びデジョオデアへ移植すれば、確かに有利なものとなるだらうと私は確信します。それらの栽植が擴大されれば、それに對する需要は現在のもの以上となるでせう。  
扱て交趾支那産の陸稻は、最も純白で風味があり、生産力も一番あると云うので有名です。つまりそれは、私達の知つてゐる他の二種類の米の長所を合せた様なものです。若しその移植に成功すれば、我々は人間の健康と生活に致命的に有害は水田の沈滞せる水を除去し得ることとなり非常に仕合せなことと思ひます。(後略)

ジェンフアスンは亦オリヰヰを南部諸州に栽培せんと試みた。彼はその栽培に多大の期待をよせ、五〇〇本以上のオリヰヰ樹をサウス・キャロライナへ送つた。前掲の籾移入について引用したと同じ手紙の一節に、次の如く述べてゐる。

「(前略)オリヰヰは、アメリカでは殆んど知られてゐない果樹です。然し十分認識する價値のあるものです。それは人類への神のあらゆる賜物の中で最も貴重なものではないけれど、非常に貴重なものです。(中略)僅か三、四ペンスで買へる一封度のオリヰヰ油は、それで調理する野菜と共にその

榮養價に於いて優に數封度の肉に匹敵するものです。味も美味です。南部諸州をこの果樹で蔽ひませう。さうすれば、誰でもこのオリヅ油の消費者になれるでせう。(後略)かくてオリヅ樹の栽培が熱狂的に開始された。然し不幸にもその土壤や氣候が栽培に適しなかつたので、彼の努力は報いられなかつた。彼は一八一三年ジェイムズ・ドナルドソン James Donaldson 宛の手紙の中で、その失敗を次の如く述べてゐる。

〔前略〕私が世界中で一番優秀なオリヅ樹と云はれてゐるエイ産のオリヅ樹五〇〇本を二船でサウス・キャロライナへ送つてから、既に二五年の年月が経過しました。然し現在それは物好きが果樹園の一部に一寸栽植してゐるのみであつて、オリヅ樹だけの果樹園は一つありません。(後略)〕

## 五

ジェフアスン時代のアメリカ農民は、家畜の飼育に關してヨオロッパ農民より遙かに遅れてゐた。かくてジェフアスンはヨオロッパから優秀な家畜を輸入して、その品種を改良しようとした。彼は、スペインからメリノ種羊をアメリカに初めて輸入した人々の中の一人であつた。次に掲げる彼の一八一〇年五月二三日附、ジェイムズ・マディソン大統領宛の手紙は、メリノ種羊の輸入に

三田學會雜誌 第四十二卷第七・八號

關し興味深い提案を述べてゐる。

〔前略〕さうすることが可能なごく少數の人々が危険やらゆる新しい改良についての經費を負擔し、改良による利益を色々制約された環境にある多くの農民に自由に分與することとは、極めて重大なことと思ひます。(中略)我々の州の各郡へ出来る丈早く一頭つつの純種の種羊を與へて下さい。そして下さるならば、各郡でその一匹の種羊を最も有効に利用する爲め私は各郡の有志連中に、この種羊の世話をしたり又その交配に關する規則を規定すべき小さな團體を形成する様に依頼させよう。(後略)〕

この手紙に示されてゐるヴァチニア各地にメリノ種羊を分配する計畫は、近年に於ける協同交配巡回班又は協同交配クラブの先驅をなすものと看做される。

彼は更にその他、象鼻虫や蠅等の害虫驅除に關して科學的且つ有效な方法を研究したり、能率的な播種機を工夫したりして、農業のあらゆる方面にわたる改良に努めたのであつた。

## 六

次に彼の農業に關する著述やメモについて一言しよう。

彼の唯一の著書たる「ヴァチニア覚え書」(Notes on

五七 (四二七)

ジェフアスンと農業

五八 (四二八)

Virginia" (Paris, 1785) は、彼がフランス大使として多忙な外交官生活の餘暇に執筆したものである。彼はこの書を通じて、アメリカ文明は本質的に農業文明であり且つ將來も亦農業文明でなければならぬことを力説してゐる。スミスミアン・インスティテューションのG. ブラウン・グッド氏 G. Brown Goode によればこの書は合衆國の地誌、自然史及び天然資源に關する最初の包括的論稿であり、其後各州や聯邦政府から發行される様になつた科學的報告書の先驅をなすものである。(Notes on Virginia) の詳細については、次の二論文を参照。R. H. Brown, Jefferson's Notes on Virginia, in "Geographical Review" 33: 467-473, July 1943, P. L. Ford, Jefferson's Notes on Virginia in "Nation" 58: 80-81, 98-99, Feb. 1. 8. 1894)

彼は更に備忘録として「農場メモ」(Farm Book)及び「菜園メモ」(Garden Book)を書き残してゐる。これら兩メモの原本は、ボストンにあるマサチューセツト史學協會のクウリッヂ・コレクションに藏せられてゐる。

「農場メモ」は、一七七四年から一八二二年迄に、彼が農業に關して書き留めたいと思つたことを書いたものである。断片的なものであるが彼の農業活動の興味深い

半面を示してゐる。

次に「菜園メモ」は「農場メモ」と同様に一七六六年から一八二六年の間の記録であつて、之は主に果樹園や蔬菜園に關する彼の關心を示す興味深い記事を含んでゐる。「菜園メモ」については、次の如き論文がある。R. H. Trine, Thomas Jefferson's Garden Book, in "American Philosophical Society Proceedings" 76: 939-945, 1936

彼は又農業協同組合にも多大の關心を有し、各郡毎に農業協同組合を作り、更にそれを一つの國家的農業協同組合に統合し以て廣く農民の啓蒙に資する様提案した。彼自身もアルプマール農業協同組合の中心人物となつて大いに活躍した。而も彼の活動範圍は決して合衆國內に限定されず、遠くヨオロッパの農業會等にもアメリカ種の植物や種子を試験用に送付し廣く人類の農業發展に貢獻した。

尙彼のモンティセロのライブラリイは、廣く各國の權威ある農業書を多く蒐集し所藏してゐた。その一部の文献目錄が、一八一七年三月三日附デョオヂ・W・ジェフリー George W. Jeffrey 宛の手紙の一節に紹介されてゐる。(この手紙全文は "American Farmer" 誌 2: 93-94 (1820) に引用されてゐるが、文献目錄の部分は前掲の E. E.



Edwards, Jefferson and Agriculture, 1943, pp. 79-81 に  
も出てゐる。)

外國大使や大統領等と多忙な公職生活を送つた彼が以  
上の如く農業の殆んど全分野に亘つて顯著な活躍をした  
ことは、正に驚嘆に値する。然し彼も決して時代の風潮  
と遊離した存在ではなかつた。ここに彼の時代のアメリ  
カ及び密接な關係にあつた當時の英國の社會的風潮につ  
いて言及しよう。

當時の英國では、農藝趣味が一種の流行となつてゐ  
た。即ち貴顯紳士や富裕な階級の人々が、色々新しい農  
業上園藝上の試験を行つたりして大いに農業に關心を示  
してゐた。かくの如き、指導者階級の農藝趣味に刺戟さ  
れ、たとへ狭小なものでも菜園をもつてゐる一般庶民階  
級の間に農藝趣味が普及してゐた。他方アメリカに於い  
ても、獨立戰爭終了後一般の人々の關心は「劍から犁」  
へと轉じ、富裕階級も英國の影響で等しく農業に關心を  
抱いてゐた。當時アメリカ人殊に識者や富裕階級は未だ  
英國に對する植民地的劣等感から脱却し得ず、英國のも  
のは何でも優れたものとして模倣する傾向が強かつた。  
これはフランスの社會心理學者ガブリエル・タルドの所  
謂「優勝模倣」である。ジェファソンも英國に於ける農

三川學會雜誌 第四十二卷第七・八號

五九 (四二九)

アメリカ産業資本の形成

六〇 (四三〇)

## アメリカ産業資本の形成

—— 鐵工業の性格と系譜 ——

中 村 勝 己

「かかる製造業は農業の末裔である。」

—— アダム・スミス 國富論

—— キヤノン版三八三頁 ——

我々が資本主義發達史を研究する場合、先づ問題とな  
るのは、資本主義とは何であるかといふ事である。この  
點について、學者の見解は二つに大別出来ると思はれ  
る(1)。その一は之を近代に特有な現象と考へ、従つて資  
本主義發達史の研究とは、特殊近代的な社會經濟構造の  
成立過程を探る事であるとする(2)に對し、他は資本主義  
を「營利」乃至「利潤追求」一般と考へ、従つて古代資  
本主義とか中世資本主義と呼ばれるものを考へるので

ある(3)。確かに、かかる意味のいはゞ類型的現象としての  
「資本主義」Ⅱ「營利」Ⅱ「利潤追求」は歴史の何れの  
時代にも存在した。「資本主義」は支那、インド、ペ  
ロにも、古代にも中世にも存在してゐた(4)。「其は實  
際、歴史的に最も古くから存在してゐるところの、資本  
の自由な存在様式なのである(5)」。併し、かかる「營利」  
も歴史的にはその性格を異にしてゐた(6)。それ故に、我  
は近代以前の資本の存在形態を「前期的資本」と呼び、  
近代の其を「産業資本」と呼びたい。而して後者が前者  
と異なる所以は、其が流通行程に活動の主なる場面を見出  
すに非ずして、特に生産力の基盤の上に立つ營利、換言  
すれば、自らの中に生産行程を含む營利である點である。